

テ莖腐シ新葉ヲ生ズ冬ヲ經テ枯レズ根ノ形水仙ノ如ク大サ一寸許外ハ薄キ茶色ノ皮ニテ包ム内ハ白色、コレヲ破レバ重重白薄皮ナリ、一種白花ノモノアリ、此ヲ銀燈花ト云、秘傳花鏡ニ見エタリ、略中

増、石蒜ノ根ヲ取り水飛シテ、葛粉ヲ製スル如クシテ賤民食用トス、阿州一字山ノ俗水粉ト呼ブ、或ハカタクリニ僞ル、ソノ味能ク似タリ、然レドモンノ製麩ナル時ハ、大ニ人ヲ醉ハシム、又石蒜汁ニ黄蘗ノ末ヲ加ヘ、即効紙ニ代用ス、

〔廣益地錦抄五〕石蒜 是もさんじのごとくなれども、花は八月中の比ひらく、色極朱紅花、しべ長く多く出ル、俗に曼珠沙花といふ、根は水せんのごとくなるたまなり、此根をこまかにすりて粘におしませ、屏風ふすまの下張に用れば、いつまでも虫はむ事なしとて、多く表具細工に用ユ、

〔武江産物志藥草〕道灌山ノ産 石蒜王子住

〔佐渡志物産〕石蒜 方言マムシユシヤケ 路傍ニ生ズ、一種鐵色箭アリ、人家ニ種ユ、

鐵色箭

〔和爾雅七〕鐵色箭オクスイセン類ニ石蒜一ナツスイセン

〔大和本草九〕金燈草 鐵色箭トモ云、月令廣義曰、冬春葉茂、夏月花生而葉死、花葉不相衛、此花最

下品也、其葉石蒜ニ似タリ、一類ナリ、此花ヲ國俗曼珠沙華ト云、翻譯名義曰、曼珠沙此柔軟、又曰赤華、酉陽雜俎曰、金燈草俗惡人家種之、一名無義草ト云、花アル時ハ葉ナシ、葉アル時ハ花ナシ、

〔重修本草綱目啓蒙八〕石蒜略中

鐵色箭ハナツズイセン、キツ子ノカミソリ、石蒜ヨリ葉濶ク長シ、黄色ヲ帶ブ、山麓ニ多シ、四月ニ

葉枯レ、五六月ニ莖ヲ生ジテ花ヲ開ク、黄赤色、形狀石蒜ノ花ニ似テ反卷セズ、根ハ石蒜ニ同ジ、又一種ナツズイセント呼者アリ、葉濶ク長サ二尺許、色白ヲ帶ブ、夏ニ至テ葉枯ル、秋深テ花ヲ開ク、

石蒜ヨリ莖モ長ク、花モ大ニシテ粉紫色、是宮人草ナリ、任昉ガ述異記ニ見エタリ、